

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2003 - 238559

(P2003 - 238559A)

(43)公開日 平成15年8月27日 (2003.8.27)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テ-マコード* (参考)
C 0 7 D333/20		C 0 7 D333/20	3 K 0 0 7
H 0 5 B 33/14		H 0 5 B 33/14	A 4 C 0 2 3
33/22		33/22	D
// C 0 9 K 11/06	690	C 0 9 K 11/06	690

審査請求 未請求 請求項の数 1 O L (全 27数)

(21)出願番号 特願2002 - 31611(P2002 - 31611)

(22)出願日 平成14年2月8日 (2002.2.8)

(71)出願人 000005887

三井化学株式会社

東京都千代田区霞が関三丁目2番5号

(72)発明者 中塚 正勝

千葉県袖ヶ浦市長浦580 - 32 三井化学株式
会社内

(72)発明者 島村 武彦

千葉県袖ヶ浦市長浦580 - 32 三井化学株式
会社内

(72)発明者 石田 努

千葉県袖ヶ浦市長浦580 - 32 三井化学株式
会社内

最終頁に続く

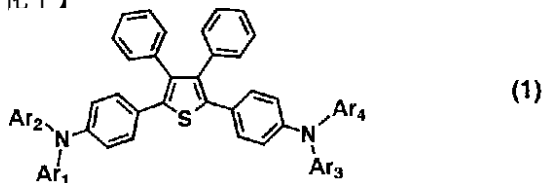
(54)【発明の名称】 アミン化合物

(57)【要約】

【課題】 有機電界発光素子の正孔注入輸送材料などに
適した新規なアミン化合物を提供する。

【解決手段】 一般式 (1) で表されるアミン化合物。

【化 1】



(式中、A r₁ およびA r₂ はそれぞれ独立に、置換ま
たは未置換のピフェニル基を表し、A r₃ およびA r₄
はそれぞれ独立に、置換または未置換のフェニル基を表
す)

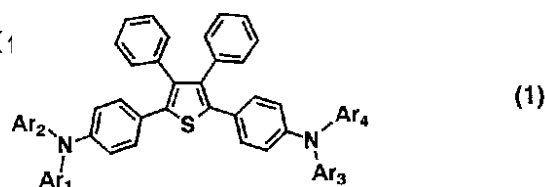
1

2

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 一般式 (1) で表されるアミン化合物

【化 1】



(式中、 Ar_1 および Ar_2 はそれぞれ独立に、置換または未置換のピフェニル基を表し、 Ar_3 および Ar_4 はそれぞれ独立に、置換または未置換のフェニル基を表す)

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、新規なアミン化合物に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、アミン化合物は、各種色素の製造中間体、あるいは各種の機能材料として使用されてきた。機能材料としては、例えば、電子写真感光体の電荷輸送材料に使用されてきた。さらに、最近では、発光材料に有機材料を用いた有機電界発光素子（有機エレクトロルミネッセンス素子：有機 EL 素子）の正孔注入輸送材料に有用であることが提案されている〔例えば、App l. Phys. Lett., 51、913 (1987)〕。有機電界発光素子の正孔注入輸送材料として、4, 4'-ビス〔N-フェニル-N-(3"-メチルフェニル)アミノ〕ピフェニルを用いることが提案されている〔Jpn. J. Appl. Phys., 27、L269 (1988)〕。また、有機電界発光素子の正孔注入輸送材料として、例えば、2, 5-ビス〔4'-(N, N-ジアリールアミノ)フェニル〕-3, 4-ジフェニルチオフェン誘導体〔例えば、2, 5-ビス〔4'-(N, N-ジフェニルアミノ)フェニル〕-3, 4-ジフェニルチオフェン、2, 5-ビス〔4'-[N-フェニル-N-(4"-フェニルフェニル)アミノ]フェニル〕-3, 4-ジフェニルチオフェン〕を用いることが提案されている（特開平 10-125468 号公報）。しかしながら、これらのアミン化合物を正孔注入輸送材料とする有機電界発光素子は、安定性、耐久性に乏しいなどの難点がある。現在では、一層改良された有機電界発光素子を得るためにも、新規なアミン化合物が望まれている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】本発明の課題は、新規なアミン化合物を提供することである。さらに詳しくは、有機電界発光素子の正孔注入輸送材料などに適した新規なアミン化合物を提供することである。

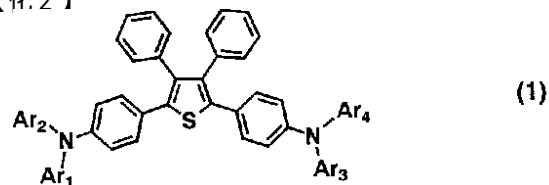
【0004】

【課題を解決するための手段】本発明者等は、種々のア

ミン化合物に関して鋭意検討した結果、本発明を完成するに至った。すなわち、本発明は、一般式 (1) で表されるアミン化合物である。

【0005】

【化 2】



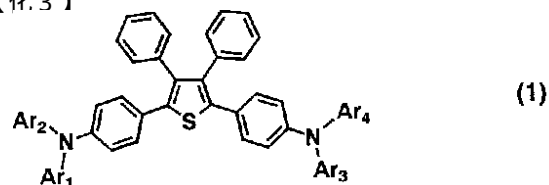
【0006】(式中、 Ar_1 および Ar_2 はそれぞれ独立に、置換または未置換のピフェニル基を表し、 Ar_3 および Ar_4 はそれぞれ独立に、置換または未置換のフェニル基を表す)

【0007】

【発明の実施の形態】以下、本発明に関して詳細に説明する。本発明は、一般式 (1) で表されるアミン化合物である。

【0008】

【化 3】



【0009】(式中、 Ar_1 および Ar_2 はそれぞれ独立に、置換または未置換のピフェニル基を表し、 Ar_3 および Ar_4 はそれぞれ独立に、置換または未置換のフェニル基を表す)

【0010】一般式 (1) において、 Ar_1 および Ar_2 は置換または未置換のピフェニル基を表す。 Ar_1 および Ar_2 は、好ましくは、未置換、もしくは、置換基として、例えば、ハロゲン原子、アルキル基、アルコキシ基、あるいはアリール基で単置換または多置換されていてもよい総炭素数 12~26 のピフェニル基であり、より好ましくは、未置換、もしくは、ハロゲン原子、炭素数 1~14 のアルキル基、炭素数 1~14 のアルコキシ基、あるいは炭素数 6~10 のアリール基で単置換または多置換されていてもよい総炭素数 12~26 のピフェニル基であり、さらに好ましくは、未置換、もしくは、ハロゲン原子、炭素数 1~4 のアルキル基、炭素数 1~4 のアルコキシ基、あるいは炭素数 6~10 のアリール基で単置換または多置換されていてもよい総炭素数 12~22 のピフェニル基である。

【0011】一般式 (1) において、 Ar_3 および Ar_4 は置換または未置換のフェニル基を表す。 Ar_3 および Ar_4 は、好ましくは、未置換、もしくは、置換基として、例えば、ハロゲン原子、アルキル基あるいはアル

コキシ基で単置換または多置換されていてもよい総炭素数6～24のフェニル基であり、より好ましくは、未置換、もしくは、ハロゲン原子、炭素数1～14のアルキル基あるいは炭素数1～14のアルコキシ基で単置換または多置換されていてもよい総炭素数6～24のフェニル基であり、さらに好ましくは、未置換、もしくは、ハロゲン原子、炭素数1～4のアルキル基あるいは炭素数1～4のアルコキシ基で単置換あるいは多置換されていてもよい総炭素数6～16のフェニル基である。

【0012】 Ar_1 および Ar_2 において、置換または未置換のビフェニル基の具体例としては、例えば、4-フェニルフェニル基、3-フェニルフェニル基、2-フェニルフェニル基、4-(4'-メチルフェニル)フェニル基、4-(3'-メチルフェニル)フェニル基、4-(4'-エチルフェニル)フェニル基、4-(4'-イソプロピルフェニル)フェニル基、4-(4'-tert-ブチルフェニル)フェニル基、4-(4'-n-ヘキシルフェニル)フェニル基、4-(4'-n-オクチルフェニル)フェニル基、4-(4'-n-ドデシルフェニル)フェニル基、3-(4'-メチルフェニル)フェニル基、2-(4'-メチルフェニル)フェニル基、2-(4'-エチルフェニル)フェニル基、4-(4'-メトキシフェニル)フェニル基、4-(3'-メトキシフェニル)フェニル基、4-(4'-エトキシフェニル)フェニル基、4-(4'-n-ブトキシフェニル)フェニル基、4-(4'-n-ヘキシルオキシフェニル)フェニル基、4-(4'-n-オクチルオキシフェニル)フェニル基、4-(4'-n-デシルオキシフェニル)フェニル基、3-(4'-メトキシフェニル)フェニル基、2-(4'-メトキシフェニル)フェニル基、2-(2'-メトキシフェニル)フェニル基、4-(4'-フルオロフェニル)フェニル基、4-(4'-クロロフェニル)フェニル基、4-(3'-フルオロフェニル)フェニル基、4-(2'-フルオロフェニル)フェニル基、2-(4'-フルオロフェニル)フェニル基、3-メチル-4-フェニルフェニル基、4-メチル-3-フェニルフェニル基、4-メチル-2-フェニルフェニル基、5-メチル-2-フェニルフェニル基、6-メチル-3-フェニルフェニル基、2-エチル-4-フェニルフェニル基、4-エチル-2-フェニルフェニル基、2-メトキシ-4-フェニルフェニル基、3-メトキシ-4-フェニルフェニル基、4-メトキシ-2-フェニルフェニル基、4-フルオロ-2-フェニルフェニル基、3-フルオロ-4-フェニルフェニル基、3-フルオロ-2-フェニルフェニル基、5-フルオロ-2-フェニルフェニル基、2,4-ジフェニルフェニル基、2-フェニル-4-(4'-メチルフェニル)フェニル基、3,4-ジフェニルフェニル基、3,5-ジフェニルフェニル基などを挙げることができるが、これらに限定されるものではない。

【0013】 Ar_3 および Ar_4 において、置換または未置換のフェニル基の具体例としては、例えば、フェニル基、4-メチルフェニル基、3-メチルフェニル基、2-メチルフェニル基、4-エチルフェニル基、3-エチルフェニル基、2-エチルフェニル基、4-n-プロピルフェニル基、4-イソプロピルフェニル基、2-イソプロピルフェニル基、4-n-ブチルフェニル基、4-イソブチルフェニル基、4-sec-ブチルフェニル基、2-sec-ブチルフェニル基、4-tert-ブチルフェニル基、3-tert-ブチルフェニル基、2-tert-ブチルフェニル基、4-n-ペンチルフェニル基、4-イソペンチルフェニル基、2-ネオペンチルフェニル基、4-tert-ペンチルフェニル基、4-n-ヘキシルフェニル基、4-(2'-エチルブチル)フェニル基、4-n-ヘプチルフェニル基、4-n-オクチルフェニル基、4-(2'-エチルヘキシル)フェニル基、4-tert-オクチルフェニル基、4-n-デシルフェニル基、4-n-ドデシルフェニル基、4-n-テトラデシルフェニル基、4-シクロペンチルフェニル基、4-シクロヘキシルフェニル基、4-(4'-メチルシクロヘキシル)フェニル基、4-(4'-tert-ブチルシクロヘキシル)フェニル基、3-シクロヘキシルフェニル基、2-シクロヘキシルフェニル基、2,4-ジメチルフェニル基、2,5-ジメチルフェニル基、3,4-ジメチルフェニル基、3,5-ジメチルフェニル基、2,6-ジメチルフェニル基、2,4-ジエチルフェニル基、2,3,5-トリメチルフェニル基、2,3,6-トリメチルフェニル基、3,4,5-トリメチルフェニル基、2,6-ジエチルフェニル基、2,5-ジイソプロピルフェニル基、2,6-ジイソブチルフェニル基、2,4-ジ-tert-ブチルフェニル基、2,5-ジ-tert-ブチルフェニル基、4,6-ジ-tert-ブチル-2-メチルフェニル基、5-tert-ブチル-2-メチルフェニル基、4-tert-ブチル-2,6-ジメチルフェニル基、

【0014】4-メトキシフェニル基、3-メトキシフェニル基、2-メトキシフェニル基、4-エトキシフェニル基、3-エトキシフェニル基、2-エトキシフェニル基、4-n-プロポキシフェニル基、3-n-プロポキシフェニル基、4-イソプロポキシフェニル基、2-イソプロポキシフェニル基、4-n-ブトキシフェニル基、4-イソブトキシフェニル基、2-sec-ブトキシフェニル基、4-n-ペンチルオキシフェニル基、4-イソペンチルオキシフェニル基、2-イソペンチルオキシフェニル基、4-ネオペンチルオキシフェニル基、2-ネオペンチルオキシフェニル基、4-n-ヘキシルオキシフェニル基、2-(2'-エチルブチル)オキシフェニル基、4-n-オクチルオキシフェニル基、4-n-デシルオキシフェニル基、4-n-ドデシルオキシフェニル基、4-n-テトラデシルオキシフェニル基、4-シクロヘキシルオキシフェニル基、2-シクロヘキシル

ルオキシフェニル基、

【0015】2-メチル-4-メトキシフェニル基、2-メチル-5-メトキシフェニル基、3-メチル-4-メトキシフェニル基、3-メチル-5-メトキシフェニル基、3-エチル-5-メトキシフェニル基、2-メトキシ-4-メチルフェニル基、3-メトキシ-4-メチルフェニル基、2,4-ジメトキシフェニル基、2,5-ジメトキシフェニル基、2,6-ジメトキシフェニル基、3,4-ジメトキシフェニル基、3,5-ジメトキシフェニル基、3,5-ジエトキシフェニル基、3,5-ジ-n-ブトキシフェニル基、2-メトキシ-4-エトキシフェニル基、2-メトキシ-6-エトキシフェニル基、3,4,5-トリメトキシフェニル基、
 【0016】4-フルオロフェニル基、3-フルオロフェニル基、2-フルオロフェニル基、4-クロロフェニル基、3-クロロフェニル基、2-クロロフェニル基、4-ブromoフェニル基、2-ブromoフェニル基、2,3-ジフルオロフェニル基、2,4-ジフルオロフェニル基、2,5-ジフルオロフェニル基、2,6-ジフルオロフェニル基、3,4-ジフルオロフェニル基、3,5-ジフルオロフェニル基、2,3-ジクロロフェニル基、2,4-ジクロロフェニル基、2,5-ジクロロフェニル基、3,4-ジクロロフェニル基、3,5-ジクロロフェニル基、2,5-ジブromoフェニル基、2,4,6-トリクロロフェニル基、2-フルオロ-4-メ

チルフェニル基、2-フルオロ-5-メチルフェニル基、3-フルオロ-2-メチルフェニル基、3-フルオロ-4-メチルフェニル基、2-メチル-4-フルオロフェニル基、2-メチル-5-フルオロフェニル基、3-メチル-4-フルオロフェニル基、2-クロロ-4-メチルフェニル基、2-クロロ-5-メチルフェニル基、2-クロロ-6-メチルフェニル基、2-メチル-3-クロロフェニル基、2-メチル-4-クロロフェニル基、3-クロロ-4-メチルフェニル基、3-メチル-4-クロロフェニル基、2-クロロ-4,6-ジメチルフェニル基、2-メトキシ-4-フルオロフェニル基、2-フルオロ-4-メトキシフェニル基、2-フルオロ-4-エトキシフェニル基、2-フルオロ-6-メトキシフェニル基、3-フルオロ-4-エトキシフェニル基、3-クロロ-4-メトキシフェニル基、2-メトキシ-5-クロロフェニル基、3-メトキシ-6-クロロフェニル基、5-クロロ-2,4-ジメトキシフェニル基などを挙げることができるが、これらに限定されるものではない。

【0017】一般式(1)で表されるアミン化合物の具体例としては、例えば、以下の化合物を挙げることができるが、本発明はこれらに限定されるものではない。

【0018】

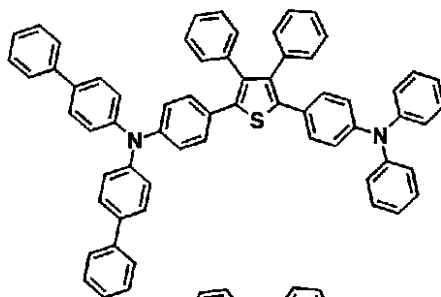
【化4】

(5)

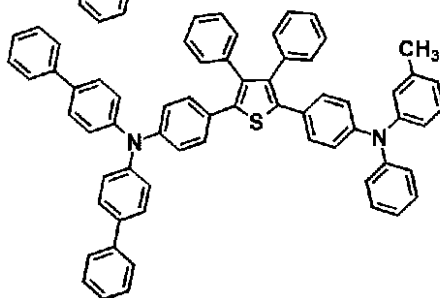
8

例示化合物番号

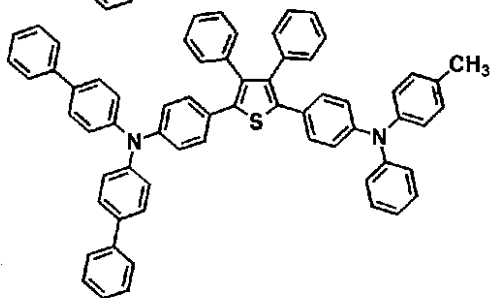
1



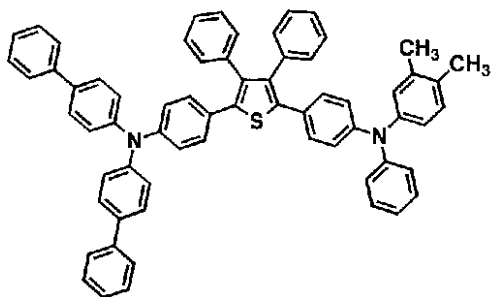
2



3



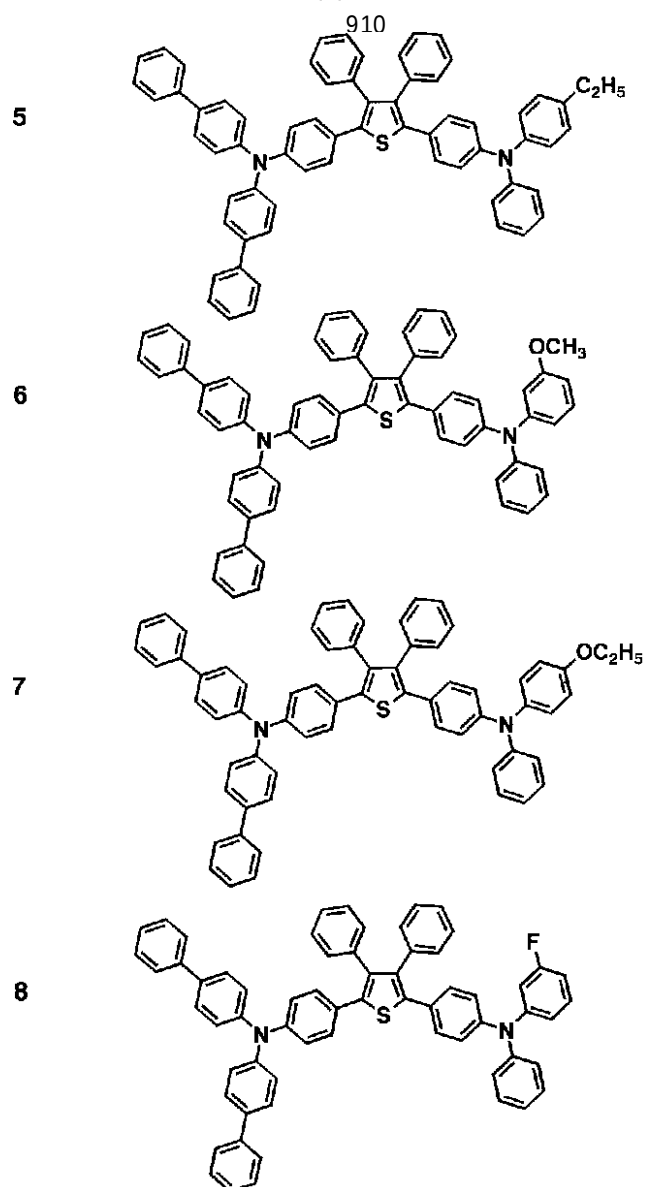
4



【0019】

【化5】

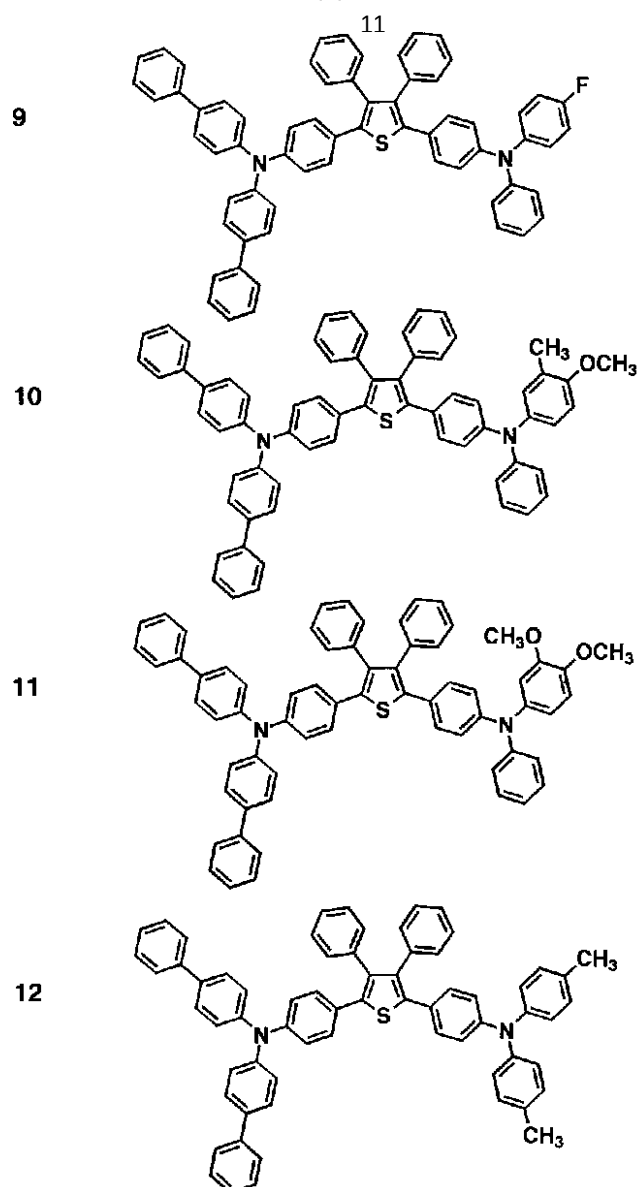
(6)



【 0 0 2 0 】

【 化 6 】

(7)



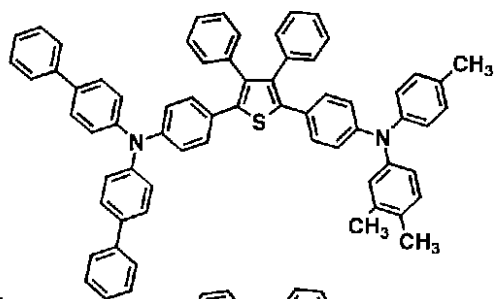
【 0 0 2 1 】

【 化 7 】

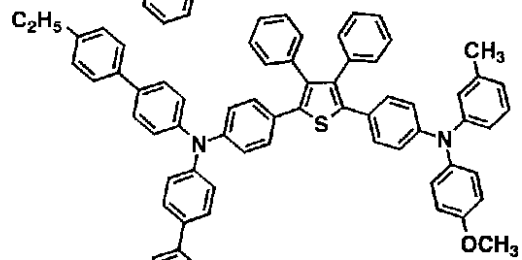
【 0 0 2 2 】

【 化 8 】

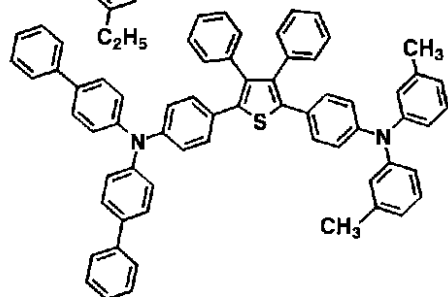
13



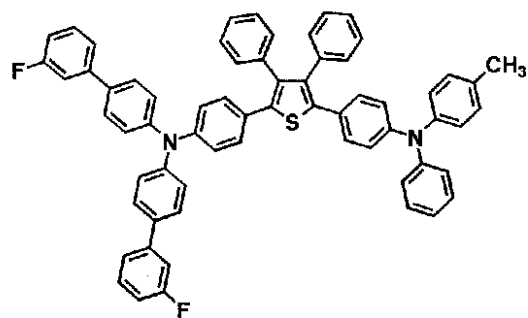
14



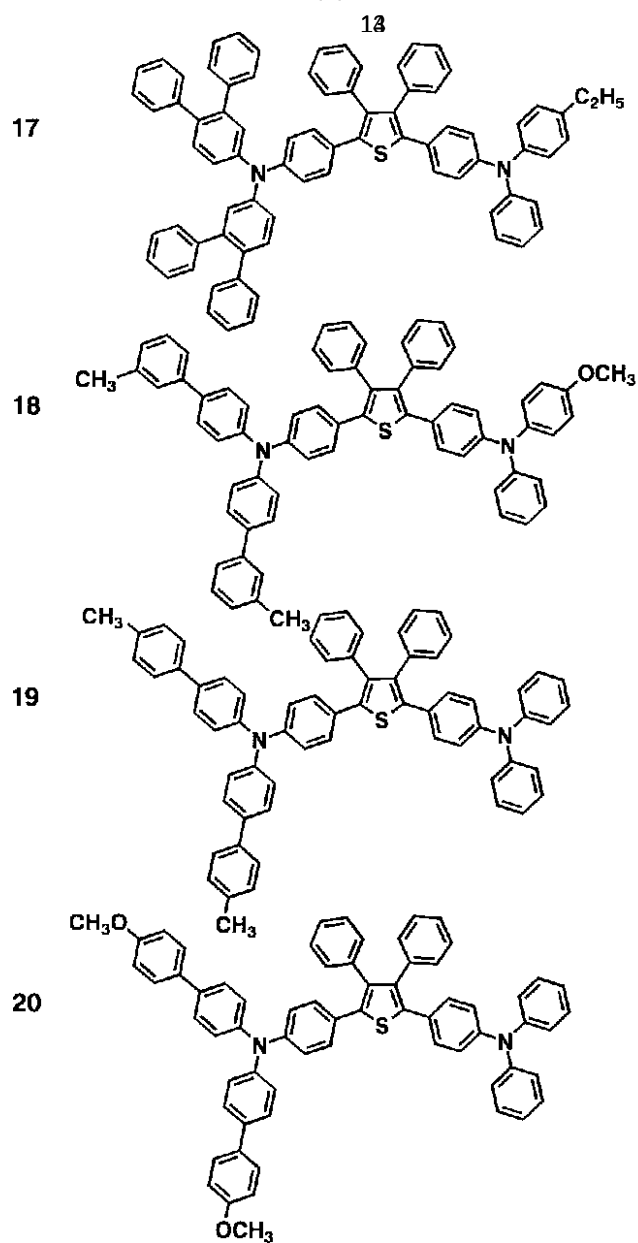
15



16



(9)

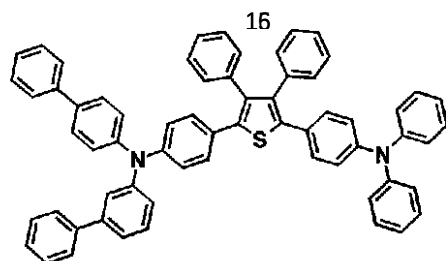


【 0 0 2 3 】

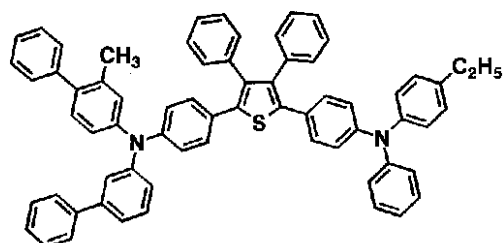
【 化 9 】

(10)

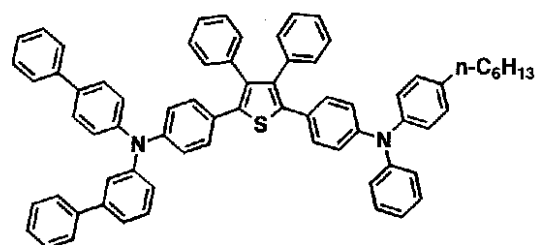
21



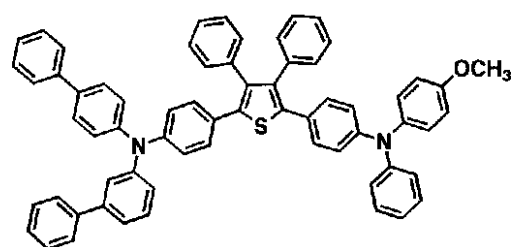
22



23



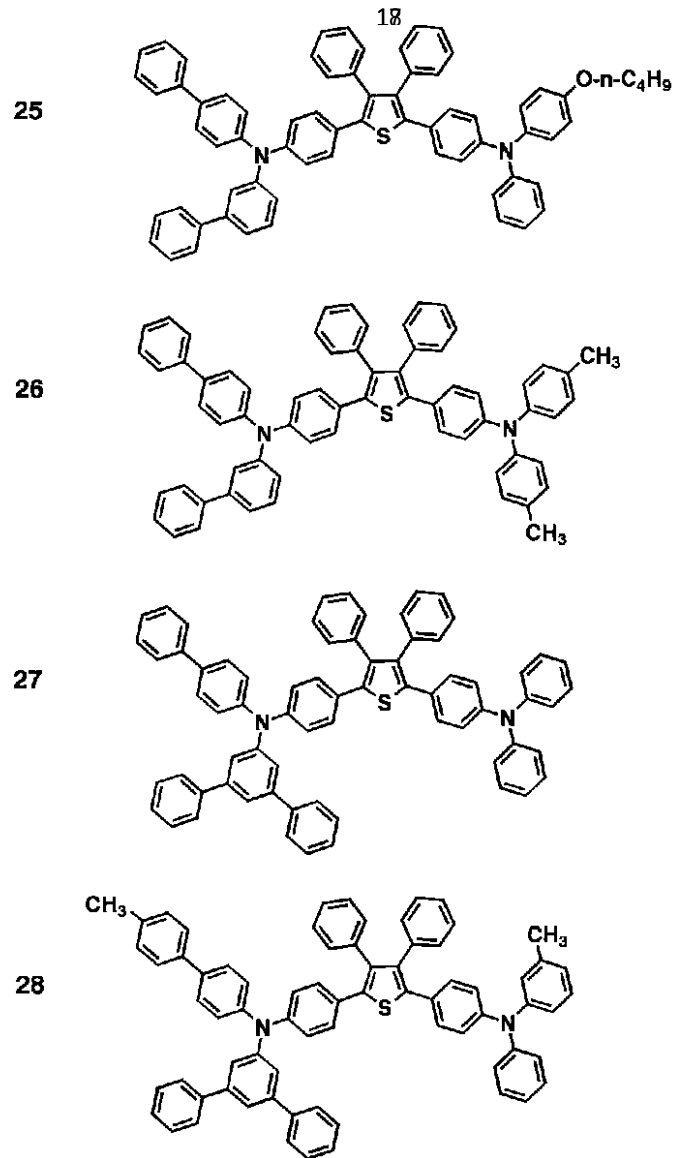
24



【 0 0 2 4 】

【 化 1 0 】

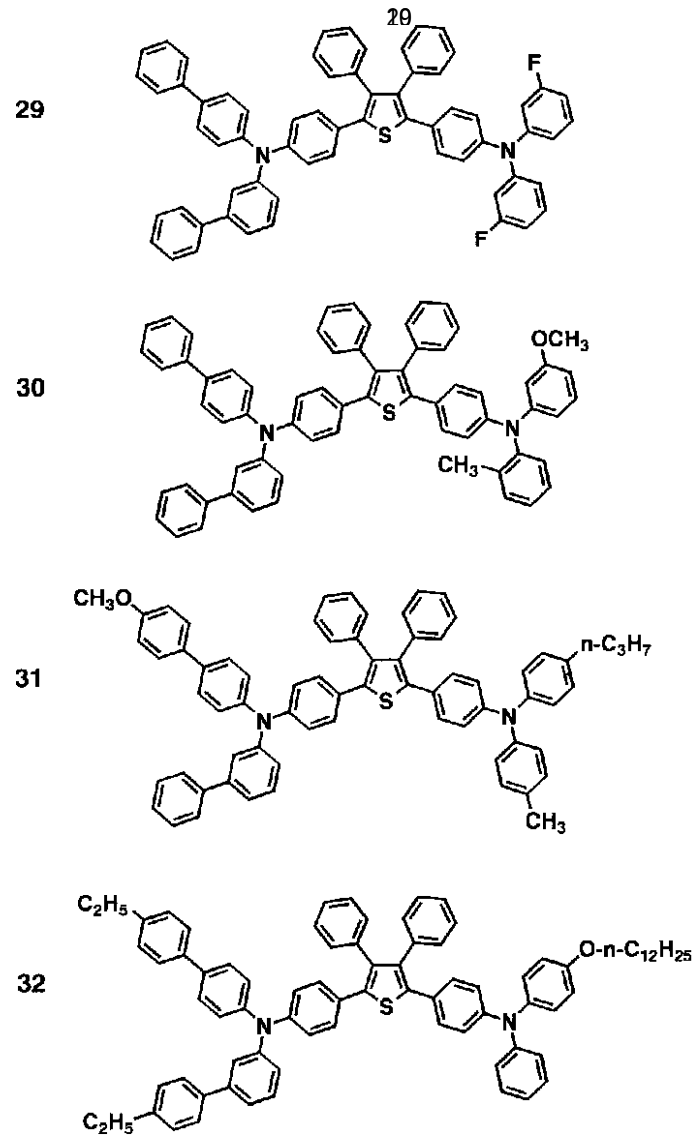
(11)



【 0 0 2 5 】

【 化 1 1 】

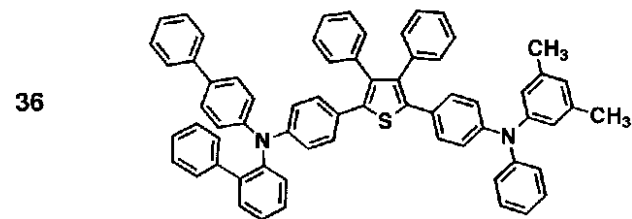
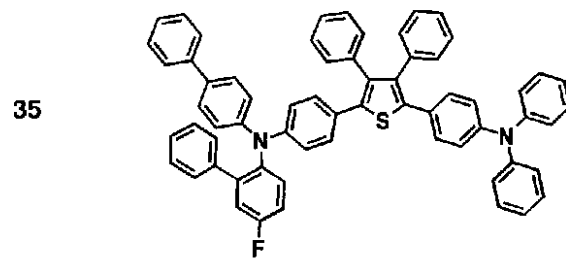
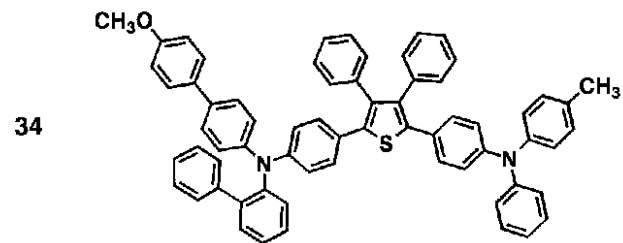
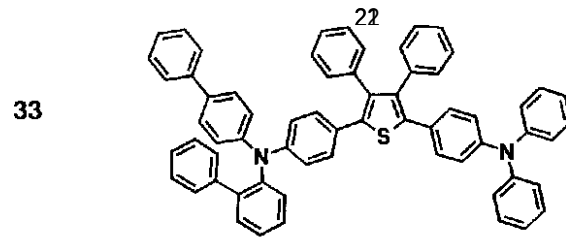
(12)



【 0 0 2 6 】

【 化 1 2 】

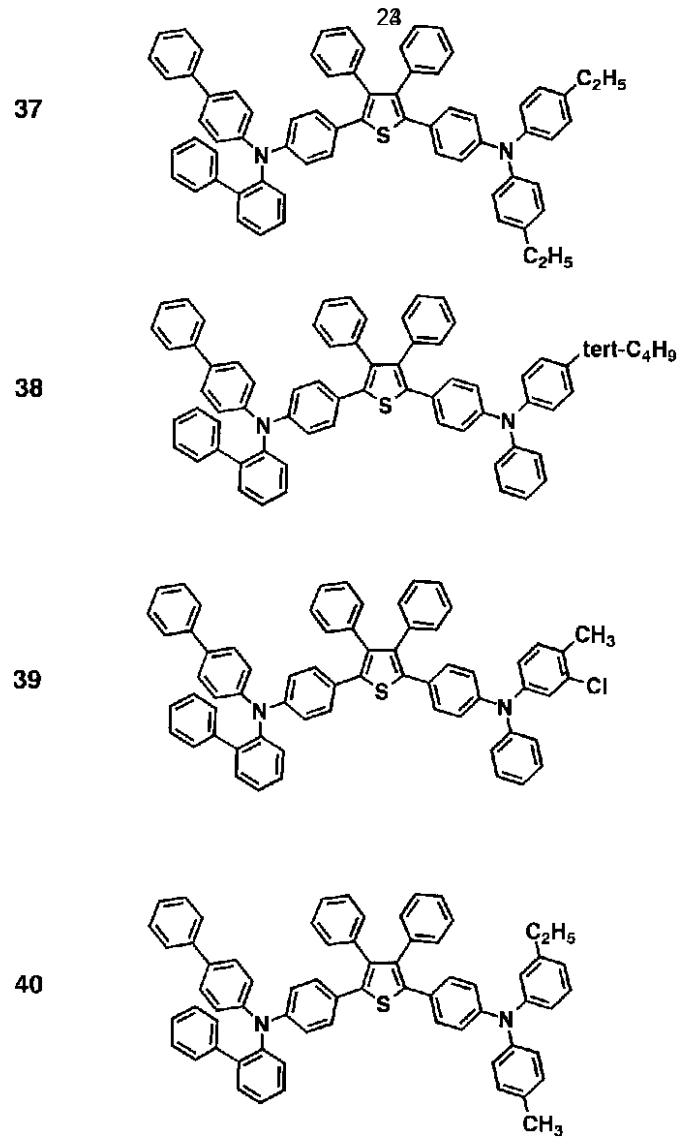
(13)



【 0 0 2 7 】

【 化 1 3 】

(14)

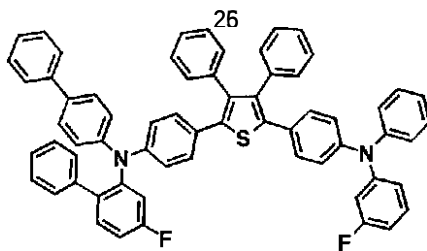


【 0 0 2 8 】

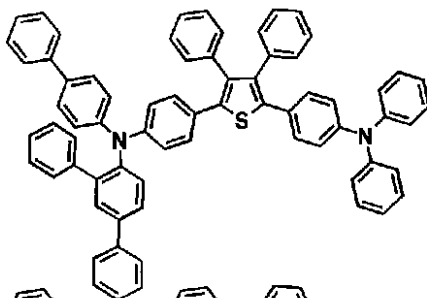
【 化 1 4 】

(15)

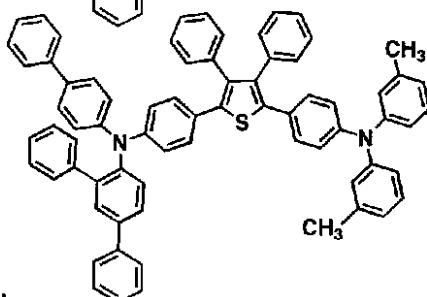
41



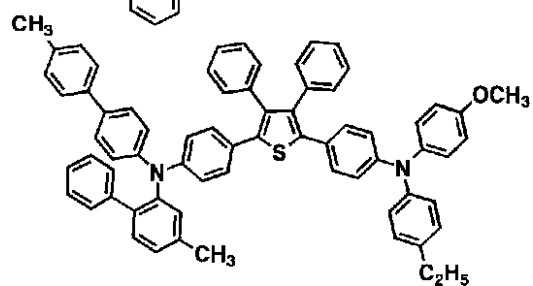
42



43



44



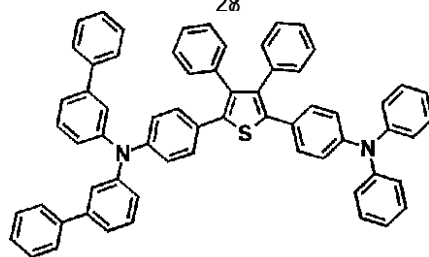
【 0 0 2 9 】

【 化 1 5 】

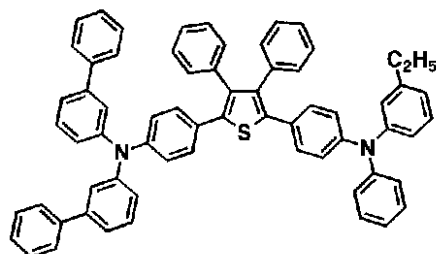
(16)

28

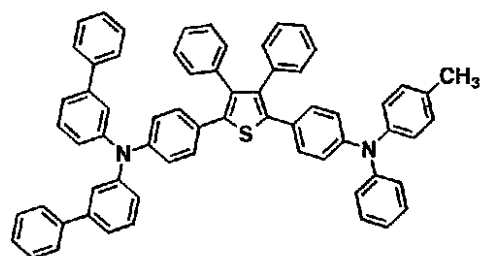
45



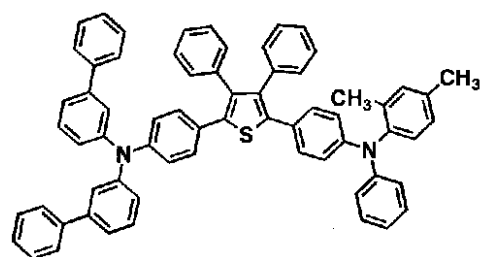
46



47



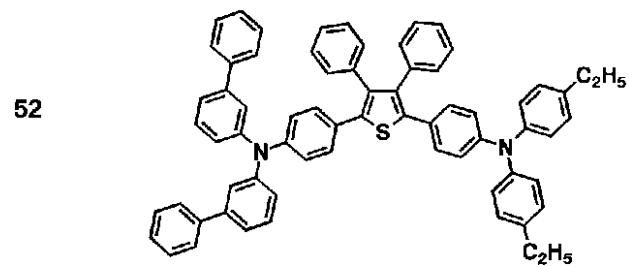
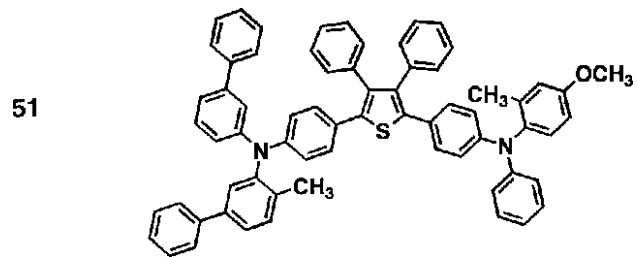
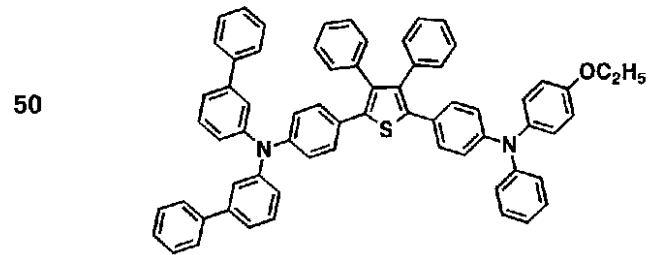
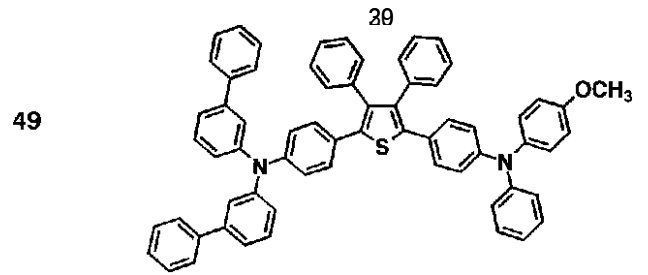
48



【0030】

【化16】

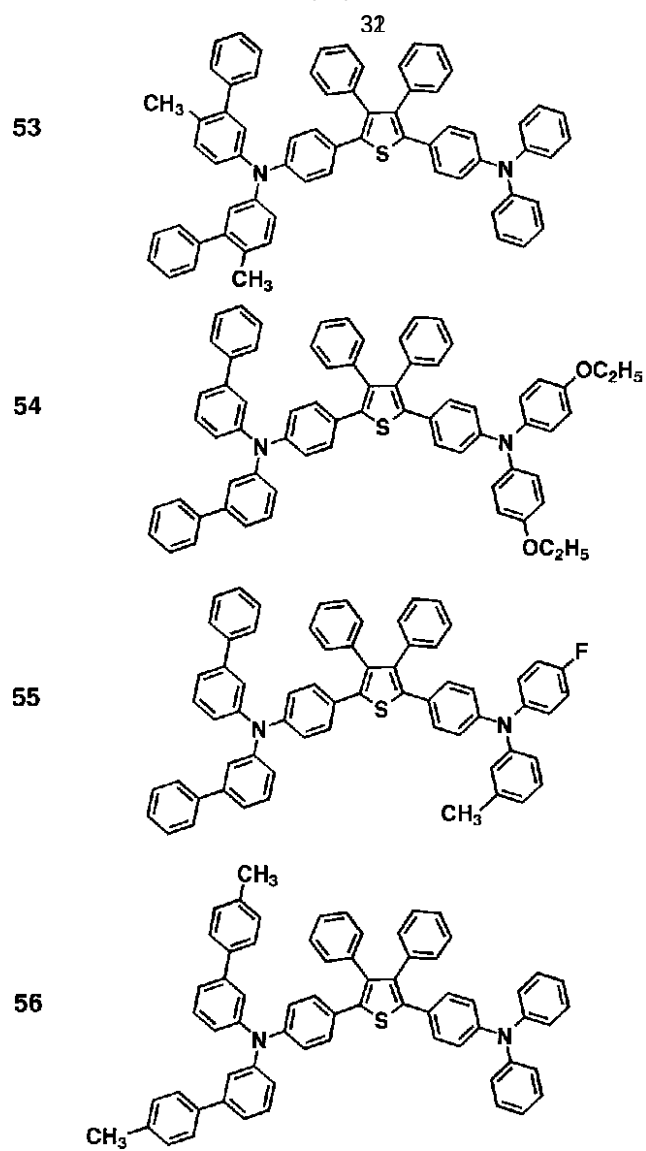
(17)



【0031】

【化17】

(18)

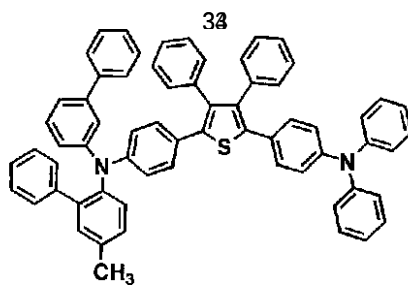


【 0 0 3 2 】

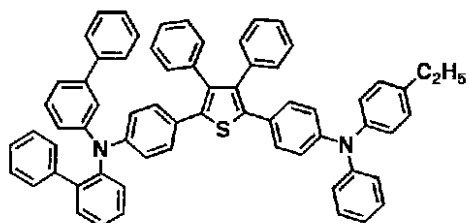
【 化 1 8 】

(19)

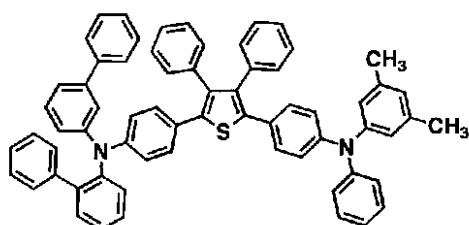
57



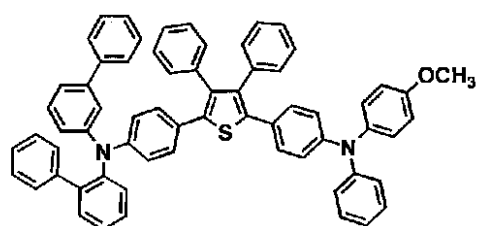
58



59



60

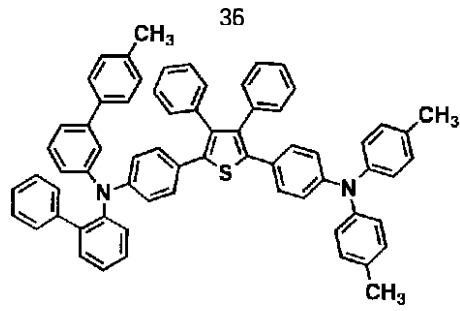


【 0 0 3 3 】

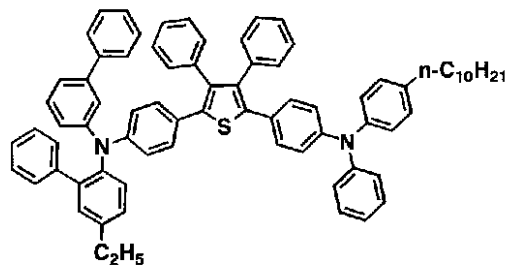
【 化 1 9 】

(20)

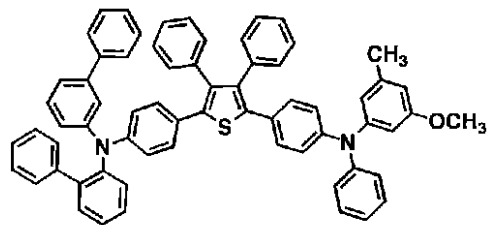
61



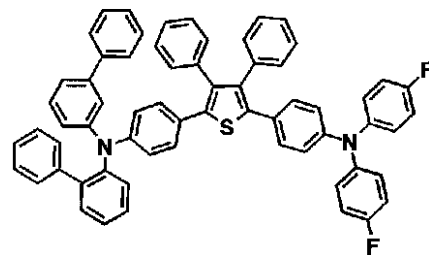
62



63



64

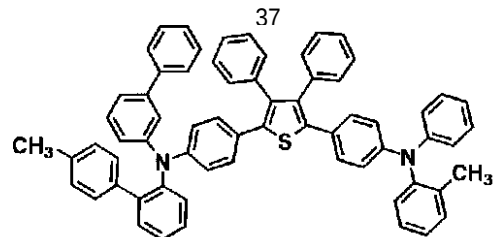


【 0 0 3 4 】

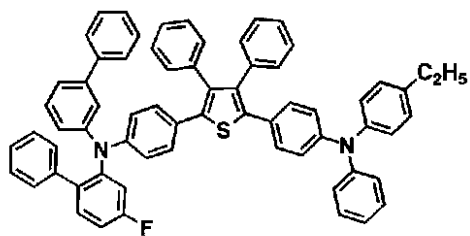
【 化 2 0 】

(21)

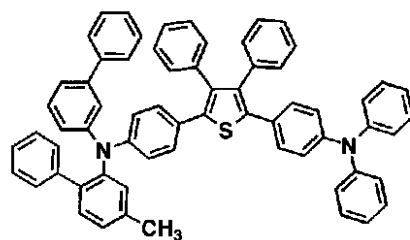
65



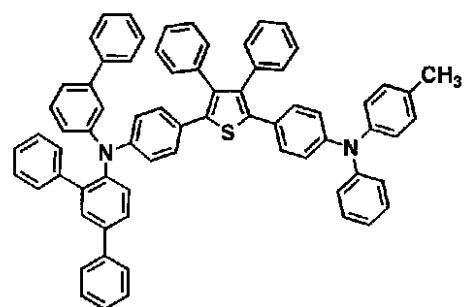
66



67



68



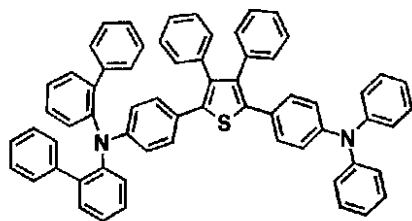
【 0 0 3 5 】

【 化 2 1 】

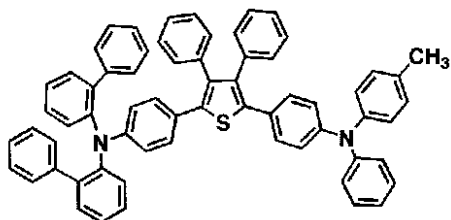
【0036】

【化22】

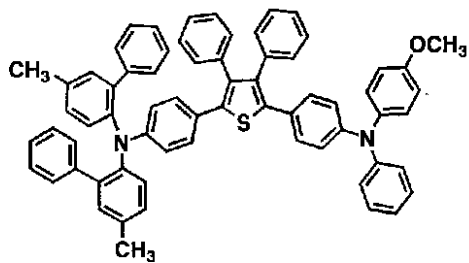
69



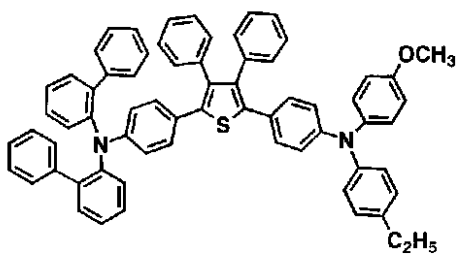
70



71

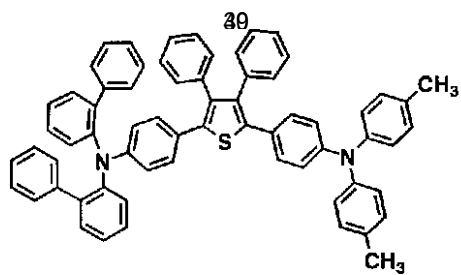


72

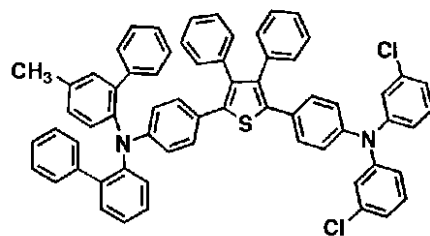


(23)

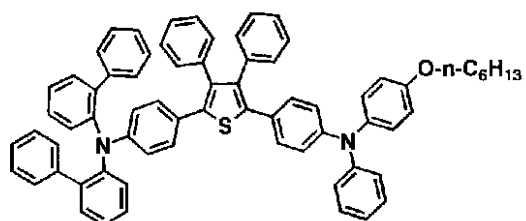
73



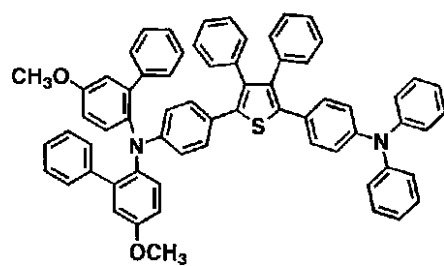
74



75



76

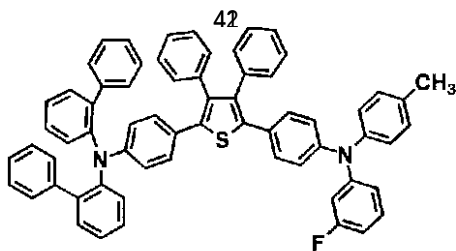


【 0 0 3 7 】

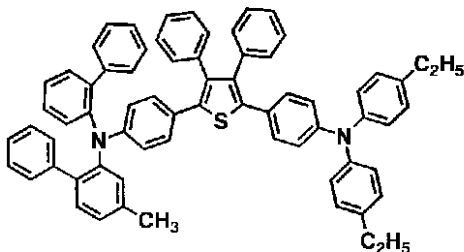
【 化 2 3 】

(24)

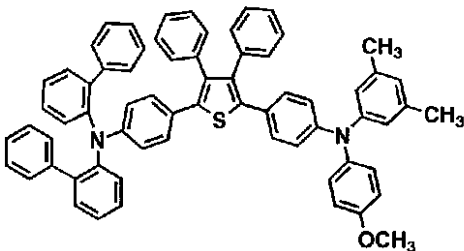
77



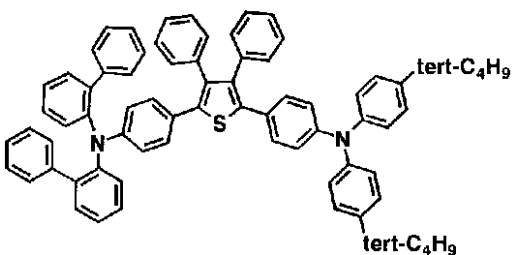
78



79



80

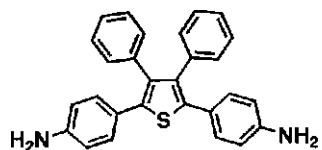


【0038】一般式(1)で表されるアミン化合物は、其自体公知の方法により製造することができる。すなわち、一般式(1)で表されるアミン化合物は、例えば、一般式(2)で表される化合物と、一般式(3)で表される化合物、一般式(4)で表される化合物、一般式(5)で表される化合物、および一般式(6)で表される化合物を、銅化合物の存在下で反応(ウルマン反応)させることにより製造することができる。

【0039】

【化24】

10



(2)



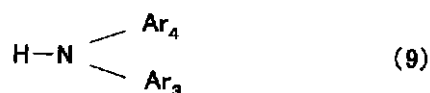
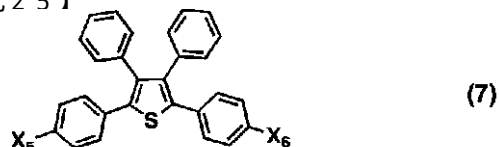
【0040】〔上式中、 $\text{X}_1 \sim \text{X}_4$ はハロゲン原子を表し、 $\text{Ar}_1 \sim \text{Ar}_4$ は一般式(1)と同じ意味を表す〕

【0041】また、一般式(1)で表されるアミン化合物は、例えば、一般式(7)で表される化合物と、一般

式(8)で表される化合物、および一般式(9)で表される化合物を、銅化合物の存在下で反応(ウルマン反応)させることにより製造することもできる。

【0042】

【化25】



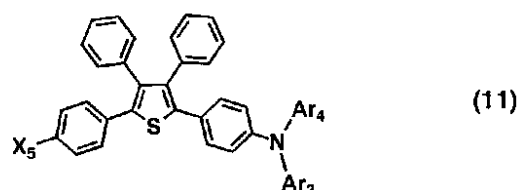
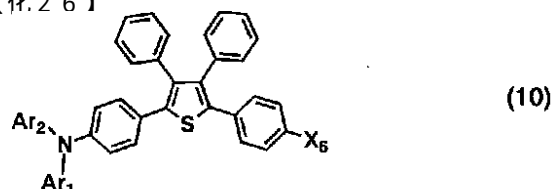
【0043】〔上式中、 X_5 、 X_6 はハロゲン原子を表し、 $Ar_1 \sim Ar_4$ は一般式(1)と同じ意味を表す〕

【0044】さらには、一般式(1)で表されるアミン化合物は、例えば、一般式(7)で表される化合物と、一般式(8)で表される化合物を、銅化合物の存在下で反応(ウルマン反応)させて、一般式(10)で表される化合物を製造した後、さらに一般式(9)で表される化合物を、銅化合物の存在下で反応(ウルマン反応)させることにより製造することもできる。

【0045】もちろん、一般式(1)で表されるアミン化合物は、例えば、一般式(7)で表される化合物と、一般式(9)で表される化合物を、銅化合物の存在下で反応(ウルマン反応)させて、一般式(11)で表される化合物を製造した後、さらに一般式(8)で表される化合物を、銅化合物の存在下で反応(ウルマン反応)させることにより製造することもできる。

【0046】

【化26】



【0047】〔上式中、 X_5 、 X_6 はハロゲン原子を表し、 $Ar_1 \sim Ar_4$ は一般式(1)と同じ意味を表す〕

【0048】一般式(3)~(7)、一般式(10)および一般式(11)において、 $X_1 \sim X_6$ はハロゲン原子を表し、好ましくは、塩素原子、臭素原子またはヨウ素原子を表し、さらに好ましくは、臭素原子またはヨウ素原子を表す。

【0049】

【実施例】以下、実施例により本発明をさらに詳細に説明するが、勿論、本発明はこれらに限定されるものではない。

10 【0050】実施例1 例示化合物番号1の化合物の製造

窒素雰囲気下で、2,5-ビス(4'-ヨードフェニル)-3,4-ジフェニルチオフェン64g、N,N-ジ(4-フェニルフェニル)アミン32g、金属銅粉10g、および無水炭酸カリウム20gをo-ジクロロベンゼン(200g)中、190℃で8時間攪拌した。反応混合物を100℃に冷却後、熱濾過した後、濾液にメタノール(400g)を加え、析出した淡黄色の固体を濾過、乾燥した。この固体をアルミナカラムクロマトグラフィー(溶出液:トルエン)で処理し、2-[4'-[N,N-ジ(4''-フェニルフェニル)アミノ]フェニル]-5-(4'''-ヨードフェニル)-3,4-ジフェニルチオフェンを32g得た。さらに、窒素雰囲気下で、この化合物8.3g、N,N-ジフェニルアミン2.0g、金属銅粉2g、および無水炭酸カリウム5gをo-ジクロロベンゼン(50g)中、190℃で8時間攪拌した。反応混合物を100℃に冷却後、熱濾過した後、濾液にメタノール(100g)を加え、析出した淡黄色の固体を濾過、乾燥した。この固体をアルミナカラムクロマトグラフィー(溶出液:トルエン)で精製した後、さらに、減圧下(10⁻⁶ torr)で昇華精製(270℃)し、淡黄色の固体として、例示化合物番号1の化合物を6.2g得た。ガラス転移温度127℃であり、明瞭な融点を示さなかった。

【0051】実施例2 例示化合物番号4の化合物の製造

実施例1において、N,N-ジフェニルアミンを使用する代わりに、N-(3,4-ジメチルフェニル)-N-フェニルアミンを使用した以外は、実施例1に記載の方法に従い、例示化合物番号4の化合物を淡黄色の固体として製造した。ガラス転移温度126℃であり、明瞭な融点を示さなかった。

【0052】実施例3 例示化合物番号7の化合物の製造

実施例1において、N,N-ジフェニルアミンを使用する代わりに、N-(4-エトキシフェニル)-N-フェニルアミンを使用した以外は、実施例1に記載の方法に従い、例示化合物番号7の化合物を淡黄色の固体として製造した。ガラス転移温度129℃であり、明瞭な融点を示さなかった。

【0053】実施例4 例示化合物番号12の化合物の製造

実施例1において、N,N-ジフェニルアミンを使用する代わりに、N,N-ジ(4-メチルフェニル)アミンを使用した以外は、実施例1に記載の方法に従い、例示化合物番号12の化合物を淡黄色の固体として製造した。ガラス転移温度130であり、明瞭な融点を示さなかった。

【0054】実施例5 例示化合物番号19の化合物の製造

実施例1において、N,N-ジ(4-フェニルフェニル)アミンを使用する代わりに、N,N-ジ〔4-(4'-メチルフェニル)フェニル〕アミンを使用した以外は、実施例1に記載の方法に従い、例示化合物番号19の化合物を淡黄色の固体として製造した。ガラス転移温度129であり、明瞭な融点を示さなかった。

【0055】実施例6 例示化合物番号21の化合物の製造

実施例1において、N,N-ジ(4-フェニルフェニル)アミンを使用する代わりに、N-(4-フェニルフェニル)-N-(3'-フェニルフェニル)アミンを使用した以外は、実施例1に記載の方法に従い、例示化合物番号21の化合物を淡黄色の固体として製造した。ガラス転移温度125であり、明瞭な融点を示さなかった。

【0056】実施例7 例示化合物番号27の化合物の製造

実施例1において、N,N-ジ(4-フェニルフェニル)アミンを使用する代わりに、N-(4-フェニルフェニル)-N-(3',5'-ジフェニルフェニル)アミンを使用した以外は、実施例1に記載の方法に従い、例示化合物番号27の化合物を淡黄色の固体として製造した。ガラス転移温度138であり、明瞭な融点を示さなかった。

【0057】実施例8 例示化合物番号45の化合物の製造

実施例1において、N,N-ジ(4-フェニルフェニル)アミンを使用する代わりに、N,N-ジ(3-フェニルフェニル)アミンを使用した以外は、実施例1に記載の方法に従い、例示化合物番号45の化合物を淡黄色の固体として製造した。ガラス転移温度123であり、明瞭な融点を示さなかった。

【0058】応用例1

厚さ200nmのITO透明電極(陽極)を有するガラス基板を、中性洗剤、アセトン、エタノールを用いて超音波洗浄した。その基板を窒素ガスをを用いて乾燥し、さらにUV/オゾン洗浄した後、蒸着装置の基板ホルダーに固定した後、蒸着槽を 3×10^{-6} Torrに減圧した。まず、ITO透明電極上に、例示化合物番号1の化合物を、蒸着速度0.2nm/secで75nmの厚さに蒸着

し、正孔注入輸送層とした。次いで、その上に、トリス(8-キノリノラート)アルミニウムを、蒸着速度0.2nm/secで50nmの厚さに蒸着し、電子注入輸送層を兼ねた発光層とした。さらにその上に、陰極として、マグネシウムと銀を蒸着速度0.2nm/secで200nmの厚さに共蒸着(重量比10:1)して陰極とし、有機電界発光素子を作製した。尚、蒸着は、蒸着槽の減圧状態を保ったまま実施した。作製した有機電界発光素子に直流電圧を印加し、50、乾燥雰囲気下、100mA/cm²の定電流密度で連続駆動させた。初期には、6.5V、輝度460cd/m²の緑色の発光が確認された。輝度の半減期は740時間であった。

【0059】応用例2~5

応用例1において、正孔注入輸送層の形成に際して、例示化合物番号1の化合物を使用する代わりに、例示化合物番号12の化合物(応用例2)、例示化合物番号19の化合物(応用例3)、例示化合物番号21の化合物(応用例4)、例示化合物番号27の化合物(応用例5)を使用した以外は、応用例1に記載の方法により有機電界発光素子を作製した。各素子からは緑色の発光が確認された。さらにその特性を調べ、結果を(第1表)に示した。

【0060】比較例1~3

応用例1において、正孔注入輸送層の形成に際して、例示化合物番号1の化合物を使用する代わりに、4,4'-ビス〔N-フェニル-N-(3"-メチルフェニル)アミノ〕ビフェニル(比較例1)、2,5-ビス〔4'-(N,N-ジフェニルアミノ)フェニル〕-3,4-ジフェニルチオフェン(比較例2)、2,5-ビス〔4'-[N-フェニル-N-(4"-フェニルフェニル)アミノ]フェニル〕-3,4-ジフェニルチオフェン(比較例3)を使用した以外は、応用例1に記載の方法により有機電界発光素子を作製した。各素子からは緑色の発光が確認された。さらにその特性を調べ、結果を(第1表)に示した。

【0061】

【表1】

第1表

有機電界 発光素子	初期特性 (50℃)		半減期 (50℃) (hr)
	輝度 (cd/m ²)	電圧 (V)	
応用例2	470	6.7	770
応用例3	460	6.4	780
応用例4	480	6.6	790
応用例5	480	6.5	780
比較例1	300	6.6	5
比較例2	400	6.6	100
比較例3	430	6.5	180

【0062】

【発明の効果】本発明により、新規なアミン化合物を提供することが可能になった。特に、有機電界発光素子用の正孔注入輸送材料として優れた特性を有するアミン化合物を提供することが可能になった。

フロントページの続き

(72)発明者 田辺 良満
千葉県袖ヶ浦市長浦580-32 三井化学株式会社内

(72)発明者 戸谷 由之
千葉県袖ヶ浦市長浦580-32 三井化学株式会社内
Fターム(参考) 3K007 AB02 AB11 DB03
4C023 CA07

专利名称(译)	胺化合物		
公开(公告)号	JP2003238559A	公开(公告)日	2003-08-27
申请号	JP2002031611	申请日	2002-02-08
[标]申请(专利权)人(译)	三井化学株式会社		
申请(专利权)人(译)	三井化学株式会社		
[标]发明人	中塚正勝 島村武彦 石田努 田辺良満 戸谷由之		
发明人	中塚 正勝 島村 武彦 石田 努 田辺 良満 戸谷 由之		
IPC分类号	H01L51/50 C07D333/20 C09K11/06 H05B33/14 H05B33/22		
FI分类号	C07D333/20 H05B33/14.A H05B33/22.D C09K11/06.690 C09K11/06.635 H05B33/14.B		
F-TERM分类号	3K007/AB02 3K007/AB11 3K007/DB03 4C023/CA07 3K107/AA01 3K107/CC21 3K107/DD71 3K107/DD78		
其他公开文献	JP4256103B2		
外部链接	Espacenet		

摘要(译)

要解决的问题：提供一种适用于有机电致发光器件的空穴注入/传输材料的新型胺化合物。通式(1)表示的胺化合物。[化学1] (式中，Ar1和Ar2分别独立地表示取代或未取代的联苯基，Ar3和Ar4独立地表示取代或未取代的苯基。代表

【化1】

